

駅、商業施設、都市公園が一体となった南町田グランベリーパーク 第1回グリーンインフラ大賞「都市空間部門」において優秀賞を受賞！

町田市、東急株式会社、東急電鉄株式会社が連携・共同し推進する南町田拠点創出まちづくりプロジェクト（以下、本プロジェクト）のエリア内、「南町田グランベリーパーク地区」（以下、本地区）が、第1回グリーンインフラ大賞「都市空間部門」において、優秀賞を受賞しました。

グリーンインフラは、コンクリートなどの人工物ではなく、石や土、緑などの自然環境がもともと持つ力や機能を活かして、日々の生活を支えるインフラとして活用する取り組みで、昨今、海外を中心に取り組みが進められ、日本でもその概念が導入され始めています。

グリーンインフラ大賞は、グリーンインフラに関する優れた取り組み事例を表彰し、広く情報発信することを目的に、令和2年度に創設された表彰制度です。第1回グリーンインフラ大賞では、「防災・減災部門」「生活空間部門」「都市空間部門」「生態系保全部門」を対象に、全国から応募のあった117件の取り組み事例の中から、22件の優秀賞が決定されました。

本地区は、都市の魅力づくり、バリアフリー、豪雨対策などの地域課題を、官民の連携・協働によるまちの再編を通じて解決させ、まちの共通デザインとしてグリーンインフラを積極的に活用した取り組みとして、評価されました。本プロジェクトにおけるグリーンインフラの主な取り組み内容は、以下のとおりです。

主な取り組み内容

- 郊外の“暮らしのグリーンインフラ”として、多様な活動が営まれる場の創出
 - ・ 駅から商業施設、公園までをバリアフリーで快適に歩き回れる歩行者ネットワークの整備
 - ・ みどりと賑わいが融合した広場等のオープンペースの配置
 - ・ 歩行者ネットワークや広場における、在来種を基調とした多様な植栽の植生
- 雨水の自然浸透装置となるグリーンインフラをまちの共通デザインとして採用
 - ・ 敷地周辺を囲むように石を敷き詰めた隙間の多い溝状の「雨のみち：バイオスウェル」
 - ・ くぼ地状の植栽帯「雨のにわ：レインガーデン」



▲多様な活動が営まれる鶴間公園



▲雨のみち：バイオスウェル

本プロジェクトは、田園都市線「南町田グランベリーパーク駅」（2019年10月1日に「南町田駅」から改称）南側に広がる鶴間公園と2017年2月に閉館したグランベリーモール跡地を中心とする約22haのエリアについて、官民が連携し、都市基盤・商業施設・都市公園・駅などを一体的に再整備・再構築し「新しい暮らしの拠点」の創出に取り組むまちづくりプロジェクトです。

本プロジェクトの取り組み概要は、別紙のとおりです。

以上

【別紙】

<位置図>



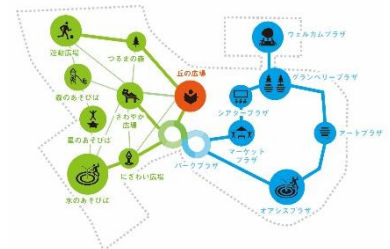
1. グリーンインフラ

グリーンインフラとは、自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方で、昨今、海外を中心に取り組みが進められ、日本でもその概念が導入されつつあり、平成27年8月に閣議決定された国土形成計画では、「社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能(生物の生息・生育の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等)を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めるグリーンインフラに関する取り組みを推進する。」と位置付けられています。

2. 主な取り組み内容

2-1. 郊外の“暮らしのグリーンインフラ”として、多様な活動が営まれる場の創出

- ・駅から商業施設、公園までをバリアフリーで快適に歩き回れる歩行者ネットワークの整備
- ・みどりと賑わいが融合した広場などのオープンスペースの配置
- ・歩行者ネットワークや広場における、在来種を基調とした多様な植栽の植生



▲オープンスペースの配置

2-2. 雨水の自然浸透装置となるグリーンインフラをまちの共通デザインとして採用

- ・敷地周辺を囲むように石を敷き詰めた隙間の多い溝状の「雨のみち:バイオスウェル」
- ・くぼ地状の植栽帯「雨のにな:レインガーデン」



▲雨のにな:レインガーデン

【国土交通省による記者発表(2020年12月17日
「第1回グリーンインフラ大賞の優秀賞を決定しました!」)】

https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10_hh_000232.html

(参考)「南町田グランベリーパーク」の概要

まち名称 「南町田グランベリーパーク(Minami-machida Grandberry Park)」
敷地面積 約22ha
交通 田園都市線南町田グランベリーパーク駅直結 / 東名高速道路横浜町田ICから約1分
開業日 2019年11月13日

南町田拠点創出まちづくりプロジェクトホームページ <http://minami-machida.town>

※商業施設名称は「グランベリーパーク(Grandberry Park)」



3. そのほかの受賞歴など

■令和2年度都市景観大賞「都市空間部門」国土交通大臣賞

2020年6月に、令和2年度都市景観大賞「都市空間部門」において、大賞にあたる国土交通大臣賞を受賞しました。都市景観大賞は、平成3年度から「都市景観100選」として始まった、まちづくり分野における由緒ある賞で、このうち、「都市空間部門」の選定対象は、公共的空間と建物などが一体となって、良質で優れた都市景観が形成され、市民に十分に活用された地区と規定されています。本プロジェクトの、官民一体で取り組んだシームレスなまちの構造と、質の高い空間整備が高く評価され、大賞受賞にいたりしました。

※国土交通省による記者発表(2020年6月11日「令和2年度「都市景観大賞」各賞の選定～良好な景観に資する地区・活動について、特に優れたものを表彰～」)

https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi10_hh_000343.html

■国際的な環境認証制度LEED®(Leadership in Energy and Environmental Design)におけるゴールド認証

南町田グランベリーパークのうち約15haの区域(以下、「申請エリア」)において、2020年6月に駅舎部分に関する「LEED NC(新築部門)」のゴールド認証を、同年7月に申請エリアに関する「LEED ND(まちづくり部門)」のゴールド認証をそれぞれ取得しました。駅舎建築物としてのゴールド認証の取得、駅舎を含む開発エリアのゴールド認証の取得ともに、国内初です。

LEED®は、米国グリーンビルディング協会が所管する環境性能 評価指標のことであり、環境配慮型の建物や敷地利用を評価対象とし、環境性能を様々な視点から評価することで、エネルギー効率にすぐれ、持続可能な建築物を普及することを目的とした評価制度です。「BD+C(建築設計および建設)」「ND(近隣開発)」など6つの評価分野があり、世界全体で8万を超えるプロジェクトが認証を取得しています。

■「第40回緑の都市賞」国土交通大臣賞

2020年10月に「第40回緑の都市賞」において国土交通大臣賞を受賞しました。「緑の都市賞」は、緑豊かなまちづくりへの貢献に対する「都市の緑3表彰」のひとつで、みどりを生かした環境の改善、景観の向上、地域社会の活性化などに先進的かつ意欲的に取り組み、良好な成果を挙げた市民活動やまちづくり活動を表彰する、今年で40回目となる歴史ある賞です。今回、「緑の事業活動部門」として、公園をはじめとする「まちのオープンスペース」を新しい価値に据えた官民一体のまちづくりや、地域と一緒に取り組んできた、まちの中で育った木をまちづくりに活かす独自の取り組みなどが高く評価され、国土交通大臣賞受賞にいたりしました。

※公益財団法人都市緑化機構によるプレスリリース(2020年10月22日)

https://urbangreen.or.jp/info-grant/3hyosho/3toshisho/201022_press_toshinomidori3hyosho

■「第8回プラチナ大賞」新しい時代のまちづくり賞

2020年10月に、「第8回プラチナ大賞」において、優秀賞-新しい時代のまちづくり賞-を受賞しました。「プラチナ大賞」は、370の自治体・企業・学識者等(2020年9月時点)で構成する「プラチナ構想ネットワーク」が主催し、これからの日本が直面する社会や地域の課題を、新たな切り口、手法で解決しようとする先進的な取り組みの中で特に優れた事例を表彰する、今年で8回目となる賞です。今年には全国から58件の応募があり、最終審査に進出した14団体が10月22日にプレゼンテーションを行いました。本地区における、官民連携による歩いて楽しいウォーカブルなまちへの再編、一般財団法人の設立による将来を見据えたまちづくりと持続的な発展につながる組織体制の構築などの取り組みが評価され、優秀賞-新しい時代のまちづくり賞-を受賞しました。

※【プラチナ大賞】第8回プラチナ大賞ホームページ

<http://www.platinum-network.jp/pt-taishou2020/schedule.html>